

2024 年 6 月 18 日

学校法人三幸学園
横浜ビューティー&ブライダル専門学校
校長 小泉 いつみ 殿

学校関係者評価委員会
委員長 高橋 健二

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 高橋 健二 (株式会社 M.SLASH HD ディレクター)
- ② 伊藤 瑠音 (nailsalon Uill)
- ③ 渡邊 太陽 (2023 年度美容科卒業生)
- ④ 武田 祥子 (飛鳥未来高等学校横浜キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 18 日 (会場 横浜ビューティー&ブライダル専門学校 応接室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 横浜ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 松川喜代美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 高橋健二

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

2023 年度は「辞めたくない学校づくり」をテーマに教育を行ってきた。

中でも、退学率は昨年比から見て増加傾向にあり、

同様に、単位不認定者、卒業延期者も例年から増加傾向にある。

年 2 回実施する、授業アンケートでは、今後の授業のあり方、指導面についても課題が見えてきている。

また、多様な生徒指導も増えてきているため、今後の対策として更なる取り組みが必要である。

2024→「居心地の良いクラスづくり」

・規律とレーションの徹底

・良好な集団の上・中位層(2:6:2)の機会を多く持つ

② 学校関係者評価委員会コメント

在学中、就職に向けて目標があったため、努力が継続的にできていた。周りの友人の中では明確な目標が見つからず、ただ週 5 回学校に行くだけになっていた人もいた。美容師国家資格対策 WEEK が辛かった。受かるために頑張る、辛さで断念してしまう友人もいた。(渡邊委員 美容科)

夢を持って就職試験を受けてくれているが、入社後新たな目標設定(個人や集団)をし、未来の事に意識を向けるようなことが機会が必要と感じ、用意検討をしている。(高橋委員 美容科)

就職先ではアカデミーがあり、段階を踏んで、できることが増えていく環境設定がされている。（渡邊委員 美容科）

長期的な目標だけでは、ゴールが見えづらいため、技術に関しては細かい短期的な目標も必要。（伊藤委員 トータルビューティー科）

短期的な目標として小さい目標を毎日立てている。（渡邊委員 美容科）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

生徒の指導方法や、教育の解釈が、講師、教員など立場によって相違がみられる

② 今後の改善方策

学校の理念・目的・育成人材像など教科会、全体会議などで共通認識の場を繰り返し設ける。

各業界からの求められる人物像は常にリサーチが必要。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

人材育成において、本人の希望や願望があることが大事。面接の際に部活をなにしていたか、どんな立場だったか、どんな失敗したか、それを踏まえて、何を考えて、どう行動したかを聞いている。自分のためだけではなく、周りのために動ける人はとても大事。（高橋委員 美容科）

現在の高校生は、自分自身で学習計画を立ててやっていくことに対して、できる子・できない子がいる。高校では勉強以外の機会（行事やアルバイト）も大事にしている。高校卒業してからの進路に関して、就職は少ない。心が育っていないので、進学して学んで就職することが多い（武田委員 全学科）

高校卒業後専門学校への入学時、言葉遣いに関して甘さを感じた。高校生にとっての教員は年齢が離れているが、18歳になると年齢が近くなり、フランクになりやすく、専門学校の先生は話しやすいというイメージがあった。（伊藤委員 トータルビューティー科）

失敗することが最も成長機会に繋がるが、失敗することに対して怖さがあり、失敗しなさいというのも難しい。でもなんとかその機会を設けたい。お客様への失敗も現場である。（高橋委員 美容科）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

残業時間低減、やりがいのある働き方、昇給、昇格の整備

② 今後の改善方策

2024 年度より、新しい人事制度を導入、役割での評価や、行動での評価を学園全体での基準に照らし合わせより、明確に地域の差がなくステップアップが可能。業務効率化による残業時間の低減

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

企業に勤めていた時、他のスタッフとお互いに教えあって技術を高めていけたこと、指名数での売り上げの結果、採用をした方が成功したときにやりがいを感じていた。独立後は有難いことに前職のサロンの方が自身の指名客を全員連れて行っていいよと言ってくださり、リピーターの方に多くきていただいている。毎月報告会として会いたくて来てくれる方がいることがやりがいに感じている。（伊藤委員 トータルビューティー科）

現在就職して 1 年目になるが、入社前福利厚生のは気にはしていなかった。会社内ではコンプライアンスは講習がある。入社当初、立ち方・言葉遣い、注意されることが多かった。練習は任意だがやらないと技術は上がらないため、終電までやることも多い。お金払っていただいている立場として、クオリティが低い状態では提供できないと考えている。学生の頃、放課後練習はしていなかったが、授業内等しっかり集中して取り組むことを意識していた。（渡邊委員 美容科）

通信制高校では学生ができなかったことができるようになった時、学校に登校できていない学生がきっかけを見つけ、学校に登校できるようになった時に教員としてやりがいを感じている。（武田委員 全学科）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

非常に狭い範囲での、見方や考え方になりやすい、考え方の柔軟性や受け止め方の柔軟性にかける

② 今後の改善方策

外部講師や学校外での活動などをもっと取り入れる。セミナーの開催や、コンテスト等の積極的な参加ボランティアチームの発足など、機会を増やすしかけ作り

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

現在ミルボン様とタッグを組んで、活動を行っている。教育活動はメンターを育てることができる。コンテストが大好きな会社のため、自社開催のコンテストを今年の7月30日に開催する。ぜひ教育現場でも活用していただきたい。（高橋委員 美容科）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

卒業生の活躍をもっと把握していきたい

② 今後の改善方策

広報関連のパンフレットにてOBOGの掲載での連携

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

ネイルは専門学校を卒業しなくてもスクールに通い、資格取得することも可能。前職ではスクール卒業生、OLからの転職が多かった。高校生の時にネイリストを進路として決めていないと専門学校への進学という選択肢が少ないと感じる。（伊藤委員 トータルビューティー科）

高校生の時にエステ仕事にしたいと思うきっかけが高校生にとっては少ない（武田委員 全学科）

企業として中学校で職業体験を行っている。その中で小学校では職業を知る、中学校は職業を経験する段階だと感じる。中学校での美容業界での体験や経験が少ないため、中学生への認知拡大の機会が必要である。（高橋委員 美容科）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

学生相談に対応するスクールカウンセラー等の積極的な活用フロー
保護者との適正な連携

② 今後の改善方策

教員の生徒対応の見直し、専門分野の適正な活用
期初の対面での保護者説明会の実施、情報共有、行事等への積極的な見学の促し

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

保護者との連携は学園のアプリ(sankogeto)を活用して、情報展開している。中学・高校では保護者への情報共有や連絡が学校から発信があるが、専門学校に進学した際に情報共有に関して少ないと感じる方もいらっしゃる。近年は高校のオープンキャンパスに両親で参加し、関心がある保護者も増えている。保護者向けに説明会もしている大企業もあると聞いた。学生も就職に関して保護者に相談をしている方も多い。（武田委員 全学科）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

実習先、インターンシップ先とのマッチング

実習に関する実務の内容、流れなどの具体的な相談と依頼

実習内容は現場に任せてしまっている部分がある為、生徒の経験値にバラつきが見られる

② 今後の改善方策

実習受け入れ先への事前説明の徹底。実習の目的等の認識の統一。

問題が起きた時の、学生への対処、連絡フローなどの明確化(リスクコントロール)

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

実習にて企業側で困ったと感じる点はないが、様々なことを知り、就職に繋がらないことも多い。現場でやっていることが厳しいと感じる方も多い。(高橋委員 美容科)

サロン実習はとても楽しみで実習に行ったが、厳しい現実も知った。実際に就職してから実習の必要性を改めて理解をした。学生の時試験に合格するのが最大の目標だった。即戦力として実際に就職してすぐ生かせること(シャンプーなど)をもっと力を入れていたらよかった。(渡邊委員 美容科)

実習でしっかり立ち居振る舞いなどができていたら、企業側としてあの子いいなとなる。学生時代はネイルサロンへ実習に行った。実習では道具の準備、ネイルチップの見本を作成、その他ネイリストのサポートを実施。実習日数の10日は長く感じたため、本当に必要な実習時間を考えていくことが必要だと感じた。卒業後はネイルの初期段階が必要。(伊藤委員 トータルビューティー科)

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	3

① 課題

競合校との差別化、自校の強みをどうアピールするか
 学科コースの特徴を適正に伝える

② 今後の改善方策

教員の説明スキルの強化、説明ツールの充実、環境の設定等

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

学生時代、オープンキャンパススタッフを経験していてよかった。初対面の方とお話する機会は、学生時代オープンキャンパススタッフでないと経験ができなかった。教員の動きも学べた。（伊藤委員 トータルビューティー科）
 オープンキャンパススタッフを経験できてよかった。トーク力、対話力がないと働いてからコミュニケーションが取れない。高校生の案内方法、朝の準備は就職して接客や開店準備に繋がっている。（渡邊委員 美容科）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

法令遵守の徹底、コンプライアンスに関する知識やハラスメントに関する知識を有した
適正な運営

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員の法令遵守に対する啓蒙を図る。
- ・個人情報保護法など、毎年継続し繰り返し法令の正しい知識を教職員に伝えていく。
- ・教員としての自覚をしっかりと持って教壇に立ってもらえるよう定期的にハラスメント、コンプライアンスに関する研修開催。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

積極的な地域交流、貢献。学生の成長や活躍の機会を与えられる、産学連携イベントへの参加

② 今後の改善方策

産学連携やボランティア活動を目的とした、学生主体の産学連携チームの発足

今後は、成人式のメイク、スポーツイベント等へ参加、地域イベントの参加を予定している。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

地域性や産学連携の大切さ、なり手をどう増やしていくか、その先どう輝いていくか、人口減少に伴い、どうバランスをとっていくかは課題感がある。今回の機会を知ったことをなるほどと思ったことが多かったので、今後生かしていきたい。(高橋委員 美容科)